

# 15 悩み・いじめアンケート(学校独自)の有効活用

中学校 2年生・女子

## 事例の概要

Aさんは、本校独自の悩み・いじめアンケートを実施した際、アンケート回答の各質問項目に多くの記述をしていたが、「あなたは、現在、悩み(心配)や困っていることはありますか?」という質問項目の回答部分だけが空白でした。

そこで、Aさんとの教育相談を優先して実施したところ、Aさんは「B君から嫌がらせを受けている」ことを打ち明けてくれました。

## 発見の背景

本校ではスクールカウンセラーの協力を得ながら学校独自のアンケートを作成し、年3回、各長期休業明けに実施している。アンケートの実施にあたっては、1学期に「子ども理解に関わる校内研修会」を実施し、スクールカウンセラーから「アンケートを作成する時、記述式にすると『はい』『いいえ』だけでは答えられないので、何かを書かなければならない。そのため、空白の場合には『書けない何かがある』と捉えることができる。」と助言を受けていた。そのため、今回のアンケートを読み取る際、担任を含めた複数の教職員の意識が高まっていたと考えられる。

### 配慮すべき事項

多くの教職員が確認することで、より広い視野で判断することができる。

本校では、アンケートの内容を担任→副担任→生徒指導担当者→スクールカウンセラー→管理職の5段階で確認している。Aさんについては、担任も二次点検を行っていた副担任も空白が気になったため、生徒指導担当者も入って事例検討を行なった。空白の不自然さについて見解が一致したことに加え、Aさんの保健室来室数が増えてきていたことが分かったため、途中から養護教諭も検討に加わり、「保健室は落ち着く」と発言していたことが新たな情報として得られた。

また、学級の他の生徒のアンケートを確認したところ「あなたの近くで、他の人がいじめられていると思う場面はありますか?」という質問項目に、直接Aさんのことは記述されていなかったものの、「現在、悩み(心配)や困っていることがあると答えた人は、具体的に教えてくださいか?」という質問項目に、数名の生徒が「休み時間に一部の生徒が教室の後ろの方にたむろして騒いだり嫌な雰囲気を出したりしている。」と記述していた。

Aさんの座席が教室の後方であったため、この記述がAさんのアンケートと関連していると想定し、アンケート後のAさんとの教育相談の実施予定日を待たず、緊急性がある事案として、優先的に教育相談を開始した。

## 事実確認と対策の方針

- ・担任はAさんと教育相談をし、悩みや困ったことがないかを聞いたが、Aさんはなかなか話し出さなかった。そこで「空白の部分は何か書こうとしていたのではないかと思い心配している。」と伝えると、「休み時間に座って勉強していたり、他の生徒と話をしていたりすると、B君がぶつかってくる。B君から嫌がらせを受けている。」と少しずつ話し始めた。
- ・この話を受け、似たような回答をしている生徒たちにも話を聞くと、Aさん以外にB君から繰り返し嫌がらせを受けているという生徒はい

第一章

第二章

第三章

第四章

第五章

具体的な  
対 応

なかったが、Aさんと同様にぶつかられたことがあり、その際、B君は謝らないという話が複数出てきた。

- ・ B君から事情を聞くと、教室で騒いだり、遊んだりしていた事実は確認できた。しかし、Aさんへの嫌がらせは意識的にしたことではないと強く否定している。
- ・ B君は、周りの生徒に意図的に嫌がらせをしようとしていたわけではなかったが、自分の行動が周りに迷惑を掛けていることを認識していないと考えられた。そのため、相手の気持ちを考えて行動することを丁寧に指導することとした。
- ・ Aさんには、B君が意図的にAさんに嫌がらせをしていたのではないことを伝えるとともに、B君が行動を改めることを約束したことを伝え、安心感をもたせることとした。

①個別指導

- ・ B君には、自分の行動が周りの生徒の安全を脅かしていることを理解させ指導する。そして、意識していなくても、嫌な思いをしている生徒がいることを気付かせる。
- ・ Aさんには、B君と話した内容を伝えた。B君と直接話をして確認したいかと尋ねたが、Aさんは、「自分にわざと嫌がらせをしていたのではないならいいです。」と答え、安心したような表情を見せた。

②全体指導

- ・ 学級で騒ぐことは、周りの生徒にとって脅威に感じることもあることやけがの発生が増加する危険性があること等を伝え、自分の判断基準だけで行動しないように指導した。

その後の  
経 過

①個人の変容

- ・ Aさんは、事実が分かり、B君の様子も落ち着いてきたため、安心して学級にいるようになった。そのため、保健室への来室もなくなったが継続して経過を見守っている。
- ・ B君は、教室で騒いだり走ったりすることはほとんどなくなった。

②全体の変容

- ・ 多くの生徒が、悩み・いじめアンケートに様々な内容を記述するようになり、早期発見の手立てにつながっている。



(1) 本事例を振り返って

- ・ 悩み・いじめアンケートは、教職員の目が届いていない事実が記述されている場合がある。また、空白や書き直し、一度書いて消した跡などにも生徒の思いや困り感を表しているものがある。そういった小さなサインを見逃さず、しっかり丁寧に対応することで教職員への信頼感が高まり、生徒たちからの情報はより多くなる。

(2) 今後、参考にすべき点

- ・ 悩み・いじめアンケートの質問項目やその順序等は、スクールカウンセラーと連携をとりながら、子どもたちの実態を把握した上で設定し、生徒の心情や記述のしやすさ、見るべき箇所等をはっきりさせる。又、確認する場合は、多くの教職員の判断により総合的に行う。

# 16 学校における効果的な取組の事例

中学校 1年生・女子

## 事例の概要

1学期後半、行事で撮った学級写真を教室に掲示したところ、Aさんの顔の部分に鉛筆で傷をつけられました。担任が気付き対応しましたが、本人の心当たりや他の生徒からの目撃情報もなく、誰がやったのか分かりませんでした。

2学期になって、給食準備中に当番のAさんが配った給食のカップをB君が嫌がり受け取らずに、他の者に回しているのを担任がを見つけました。当初は、B君もAさん自身もいじめを否定していましたが、担任、副担任が何度となくAさんと話す機会をもつうちにAさんは、机を離す、自分が使ったエプロンを使わない、すれ違うときに避けるなどの嫌がらせをされていることを話しました。

## いじめの背景

Aさんは、寡黙で、何かあっても自分からは嫌だとは言わない子であり、いじめがエスカレートすることを恐れて自分からは言い出せないでいた。

同級生数名が教職員の見ていないところで、からかい半分にAさんに嫌がらせをしてAさんの反応を面白がっていた。

## 事実確認と対策の方針

- ・担任は、写真へのいたずらの件も含めて、Aさんへの嫌がらせの件を学年主任に相談した。学年主任は教頭と生徒指導担当者に報告し、学年会を開き、具体的に指導方針を検討した。
- ・学年会では、学年教員全員で、Aさんと学級の様子を注意深く観察し、AさんとB君への再度の聞き取りを行うとともに、Aさんの話からは、名前が分からないが、他にもAさんへの嫌がらせをしている生徒がいることが分かったことから、学年全体にアンケートをとることとした。
- ・Aさん、B君の事実確認から、学級にはB君以外にも、Aさんへの嫌がらせをしている者が特定できた。
- ・アンケートから、学級や学年には、いじめを見て見ぬふりしたり、知っていて知らぬふりしている者もいることが分かった。
- ・事実が分かったところで、再度学年会で、AさんとB君、その保護者、学級・学年の生徒への対応・指導方針を検討した。
- ・この学年の生徒は、学年で起きた問題への関心が低く、自分には関係ないという意識が強いことから、今回のいじめ問題を契機に生徒の自治力を活発化するため、いじめ撲滅に向けた活動に、生徒に主体的に取り組ませる方針が確認された。

## 具体的な対応

### ①いじめられている子とその保護者への対応

- ・Aさんは、担任に嫌がらせを受けていることを他人に告げると嫌がらせがさらにエスカレートするのではないかと悩んでいたことを明かした。
- ・担任は、保護者にこれまで明らかになっている事実を伝え、いじめている生徒への対応と今後の学校の指導方針とAさんへの支援について説明し、理解を求めた。

**配慮すべき事項**

学年集会等での指導では、いじめられている子といじめている子の立場に配慮した表現で事実や指導内容を伝える必要がある。

**②いじめている子とその保護者への対応**

- ・学年教員によるAさんの立場に立った指導により、B君をはじめいじめに関わった生徒たちが、自分のしたことを振り返り、その行為がいじめに当たることを理解するとともに、Aさんに対する反省の気持ちを伝え、謝罪した。
- ・担任と学年主任が家庭訪問して、各保護者にこれまでの指導や対応の経過を伝え、これからの学校の指導方針を説明し理解を求めた。

**③学級への指導**

- ・担任は、学年会の方針に従い、いじめの事実やアンケートの結果を利用しながら、学級で生徒が話し合う機会をもった。
- ・班長会でまとめた原案を基に、学級会での率直な意見交換を通して、いじめのない学級とするための意識を高め、子ども自身が取り組んでいくいじめ対策をつくり、実行していった。

**④学年への指導**

- ・学年集会を開き、学年主任から、いじめの事実を伝え、いじめは絶対に許されない行為であることを改めて論じた。いじめが起こってしまった事実とアンケートの結果から、仲間のことに無関心な実態があることを受け、いじめのない学級・学年にするにはどうするかについて各学級で話し合うこととした。
- ・各学級での話合いの結果を持ち寄り、学年生活委員会が主体となり、いじめ撲滅に向けた学年スローガンを募集することと挨拶活動を行うことを学年全体で取り組むこととなった。

**その後の経過**

**生徒の変容**

- ・学級での取組が始まったことにより、学級みんなが活動に取り組む姿が見られるようになるとともに、Aさんに声を掛ける生徒も多くなり、Aさんの表情も次第に明るくなった。
- ・この学級からの提案で、全校協議会で、生徒会としていじめ問題に取り組むこととなり、生徒総会で、いじめ撲滅決議を採択した。全校で挨拶運動を展開し、いじめ撲滅に向けた気運が高まり、子どもたち同士が互いに積極的に声を掛け合うようになった。さらには標語づくりなどの取組にも発展していった。



**(1) 本事例を振り返って**

- ・本事例では、学年集会等で、教員から学級や学年であった問題に対して、自分には関係ないという雰囲気があることを指摘し、話合いをもたせるなど、教員の意図的な働き掛けにより、子どもたちに的確な問題意識をもたせることができたことで、学級や委員会等による主体的ないじめ問題への取組が活発になり、学級・学年や学校からいじめをなくす気運を高めることにつながった。

**(2) 今後、参考にすべき点**

- ・子どもたちが互いに認め合える学級づくりを基本とし、意図的に好ましい人間関係や思いやりの心をはぐくむことで、子どもたちが、主体的にいじめ撲滅運動等に取り組むなど、学級・学年・学校内で生じた問題を自分たちの手で解決していく力（自浄力）を高めていくことにつながる。

# 17 いじめの未然防止に向けた指導事例

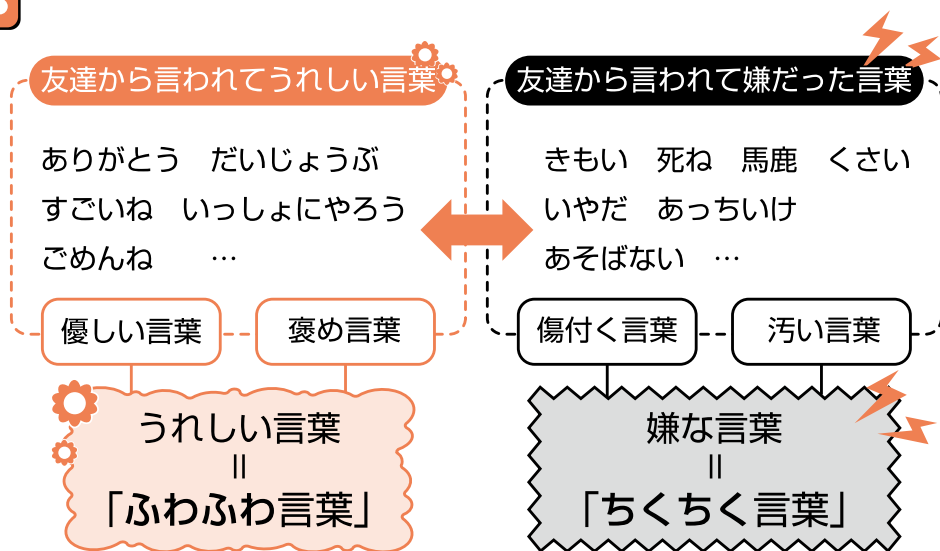
## 指導事例① ～小学校低学年「学級活動」～

小学校低学年の指導に当たっては、よりよい学級集団の形成に向けた学級会活動等で人間関係について話し合うことが効果的です。身近な問題場面を取り上げ、普段の生活で互いに気を付けなければならない言動について考えることで、日常生活に生かそうとする実践力を高めていくことが、いじめの未然防止につながります。

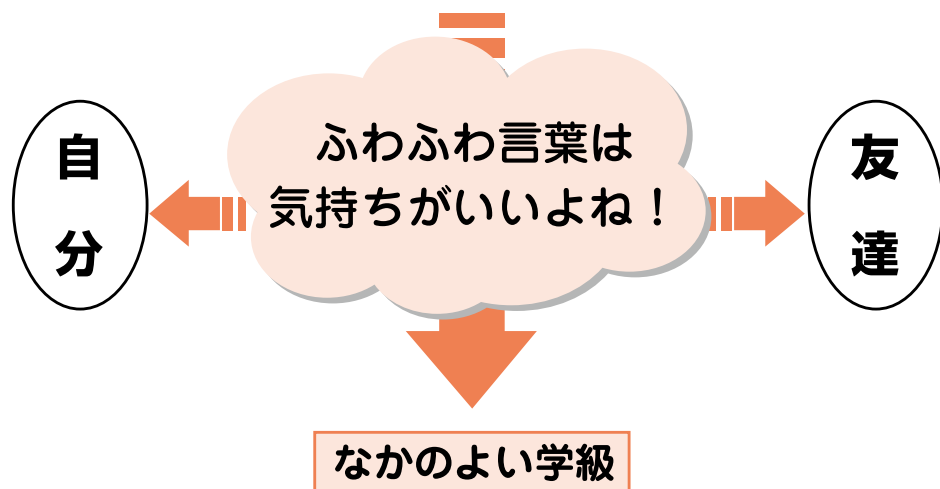
### ●ねらい●

「ふわふわ言葉とちくちく言葉」の体験談を交流し、温かい人間関係を築く言葉を考える活動を通して、相手の気持ちを考えた言葉を使おうとする。

### ●展開例●



ふわふわ言葉でつながろう!



指導事例② ～小学校全学年「道徳」「特別活動」など～

小学校の指導に当たっては、いじめられている人の気持ちを考える活動を通して、「いじめは決して許されない」という認識を確かに行うことが大切です。

また、いじめている子や周りの子の行動について考えることで、いじめのない学級・学校をつくるための実践力を高めていくことができます。

●ねらい●

児童生徒向けいじめ防止リーフレット『心の扉を開こう』を活用し、いじめの具体例について考えることを通して、いじめのない学級・学校を目指し、いじめが起らないようにしたり、早期に解決したりしようとする態度を育てる。

●展開例●

- T：リーフレットの小学校の例を読んで、いじめられているBさんやいじめる側になったあなたの気持ちを考えましょう。
- T：①の場面で、いじめられているBさんはどんな気持ちだと思いますか？
- C：一人ぼっちでさびしい気持ち。
- C：どうして無視されるのか分からない悔しい気持ち。
- T：あなたはどんな気持ちだと思いますか？
- C：Bさんのことが、かわいそうだと思っている。
- C：自分も無視しているので、ごめんねっていう気持ち。
- T：②の場面で、Bさんのために、あなたにできることを考え、リーフレットの空欄に書きましょう。
- ※書いた意見を隣や近くの人と交流する。
- T：③のように、いじめを解決する方法としては、いじめを大人に伝えて相談する方法、困っている人を励ます方法、自分たちで話し合う方法などが考えられます。外に、どんな方法が考えられますか？
- C：Aさんに注意する。(怒ったAさんに無視されるかも)
- C：Aさんをみんなで無視して、自分のしたことを分からせる。(Aさんと同じことをしてしまう)
- C：Aさん、Cさん以外の友達も誘って、みんなで遊ぶ。
- T：いじめられている人はなぜ相談できないのでしょうか？
- C：誰に、どう相談していいのかわからない。
- C：いじめがもっとひどくなるのではないかと心配している。
- T：いじめられている人は勇気を出して、先生や家族、友達などに、いじめについて相談することが大切です。周りの人たちは、いじめをはやし立てたりしないのはもちろん、見て見ぬふりをしたりせず、いじめを止めようと行動することが大切です。
- T：自分の何気ない行動がいじめになっていないか、相手の立場に立って考えましょう。読んで考えたことを実際の生活に生かし、いじめのないクラス・学校にしましょう。

**1** ある小学校のできごとです。どうすればこのようなことを解決できるか考えてみましょう。

いっつも仲の良いAさんとBさんなのですが…

「Bちゃん、今日は、遅いね。」

「ごめん、急に遊ぶ約束があるから。」

「えーっ!」

Aさん Bさん

仲良く外にされたと思ったAさんは、クラスの人に言いました。

「Bちゃんって自分勝手だね。話しかけないようにしましょう。」

「いいけど…」

Aさん Bさん Cさん

Bさんは一人であることが多くなってきました。

Aさん Cさん Bさん

**2** Aさんたちの無様は続きました。

「このまま、話さないようにしましょうね。」

「うーん…」

Aさん Bさん Cさん

Bさんは困っていましたが、誰にも話せませんでした。

「無視されるのって、とてもつらくてかなしいね。」

「心配かたから、お家の人には言えない。」

Bさん

いじめを解決するために、あなたならどうしますか？

**3** いじめを解決するために次のような方法が考えられます。

- 先生やお家の人に話す。
 

「話してくれてありがとう。一緒に考えよう。」

先生 Bさん お家の人

「Bちゃんを元気づけてあげられるといいね。」
- Bさんに話しかける。
 

「今までごめんね。今日は、いっしょに遊ぼうよ。」

「さっさと来てあげよう。」

「うれしーね。」

Aさん Bさん Cさん
- AさんやCさんに話す。
 

「これって、いじめじゃないかな？」

「そうだよね。」

Aさん Cさん Bさん

他にどのような方法があるか考えてみましょう。

指導事例③ ～中学校・高等学校全学年「道徳」「特別活動」など～

中学校・高等学校の指導に当たっては、「いじめは決して許されない」という認識を確認するとともに、何気ない行動がいじめになっていないか考えさせることが大切です。

また、いじめの関係が簡単に入れ替わることや、一度壊れた関係の修復の難しさについて考えることで、いじめのない学級・学校をつくるための実践力を高めていくことができます。

●ねらい●

児童生徒向けいじめ防止リーフレット『心の扉を開こう』を活用し、いじめの具体例について考えることを通して、いじめのない学級・学校を目指し、いじめが起らないようにしたり、早期に解決したりしようとする態度を育てる。

●展開例●

T:リーフレットの中学校の例を読んで、A君が孤立するきっかけとなったC君の言動や、A君の気持ちについて考えましょう。①の場面で、C君の言ったことについてどう思いますか？

C:A君が悪いので止むを得ない。

C:B君のために言ったかもしれないが、結果的にA君に対するいじめになっている。

C:A君に直接注意していないのは良くない。

T:A君はどんな気持ちでいるのでしょうか？

C:仲の良い友達が離れてしまい、さびしい気持ち。

C:直接言われていないので外された理由が分からない。

T:②の場面で、トラブルを解消するために、みんなはそれぞれどのようなことを考えたと思いますか？

C:もう一度話し合おうと思っているのではないか。

C:一度崩れた関係は簡単には元に戻らないと思っている。

T:③の場面のあと、あなたならどうするか、リーフレットの空欄に考えを書きましょう。

※書いた意見を隣や近くの人と交流する。

C:学校の行事などで一緒に活動し、仲直りのきっかけをつくる。

C:4人は同じ部活動なので、部活動の仲間に相談する。

T:いじめられている人はなぜ相談できないのでしょうか？

C:相談しても解決しないと思ってしまう。

C:いじめられていることを知られるのが恥ずかしい。

T:いじめられている人は勇気を出して、先生や家族、友達などに、いじめについて相談することが大切。

周りの人たちは、いじめをはやし立てたりしないのはもちろん、見て見ぬふりをしたりせず、いじめを止めようと行動することが大切。

T:自分の何気ない行動がいじめになっていないか、相手の立場に立って考えましょう。読んで考えたことを実際の生活に生かし、いじめのないクラス・学校にしましょう。

**1** ある中学校のできごとです。どうすればこのようなトラブルを防ぐことができたのか考えてみましょう。

クラスメイトで同じ部活動に所属する男子4人のグループ、Aくんは、軽い気持ちでBくんをからかったり、他のメンバーにも悪ふざけをしたりしていました。

ある日、CくんがBくんとあなたに「あいつ最近やりすぎじゃない?」と言いました。二人は同意し、しだいにAくんと距離が離れていきました。

俺は悪くないのに、なんでお叱りされるんだ。  
俺もかわいそだがしやうがないよ。  
Aがやりすぎるから怒ったんだ...  
俺たちがやっていることっていじめ?!

**2** しばらくたってから、部活動の後に一緒になった4人は、多岐のことについて話し合いました。

しかし、お互いにすっきりしない気持ちが残り、今まで通りに接することが難しくなりました。

俺が悪かったのかな? またみんなと遊びたい。  
どうすればよかったんだろう...  
こんなことになるのは悪くなかった。

トラブル解消のために、みんなはそれぞれどう考えましたか?

**3** みんなは次のようなことを考えました。

みんなもおもしろがっているとってたけど、違ってたんだな。ちゃんと謝ろうかな。  
話し合いをしたけど、思っていることをうまく伝えなかった。先生に相談した方がいいかな。  
Bがいじられてばかりだったから、あんなこと言ったんだけど、間違っていたのかな。

このあと、あなたならどうしますか?





指導事例⑤ 中学校3年生「道徳」

中学3年生ともなれば、善悪が判断できる見識は十分身に付けており、正しい言動を心掛けて当然の時期です。しかし、集団の中では周りの雰囲気の流れに流されたり、周囲の目を気にして行動を躊躇したりするなど、自分自身が本来もち合わせている判断力や正義感を発揮できないことも多くあります。道徳で、改めていじめがいかにむごく悲惨なものか考える機会を設け、いじめや偏見、差別などを断固許さない態度を育てたいものです。

●ねらい●

文部科学省発行の『私たちの道徳 中学校』に掲載されている「卒業文集最後の二行」を活用し、それぞれの立場に立って気持ちを考えることにより、いじめを許さぬ心、いじめの愚かさを知り他人を思いやる心を育む。

●展開例●

- T：時間が経過しても忘れられないような後悔はありますか。  
 C：先生に叱られて思わず嘘をつき、友達のせいにしてしまい、未だに謝罪していない。  
 C：悪いことをしている友達のことを、見て見ぬふりをしてしまった。  
 T：『私たちの道徳 中学校』P.231～235、資料「卒業文集最後の二行」を読む。  
 筆者はどんな気持ちで、汚い、くさいなどとT子さんをけなしたのか。  
 C：一時的に友達と盛り上がりおもしろい。  
 C：先生に言わないので、いじめやすい。  
 T：カンニングをしたのは自分なのに、T子さんを責めた筆者の気持ちを考えよう。  
 C：調子に乗っていた。  
 C：少しは悪いと思ったが、周りの雰囲気に合わせてしまった。  
 T：卒業文集の最後の二行を見て、筆者が果てもなく涙したのはなぜか。【中心発問】  
 C：T子さんに申し訳ない気持ちでいっぱいになったから。  
 C：自分自身が情けなく、取り返しのつかないことをしたと感じたから。  
 C：T子さんのつらさや気持ちが伝わってきたから。  
 T：「あの二行を読まなかったら、現在の私はどうなっていたらろう」という筆者は、いま、どのような生き方をしているのだろうか。  
 C：人の痛みを理解し、思いやる生き方。  
 C：自分に恥じない生き方。  
 T：この時間に考えたこと、感じたことをまとめよう。  
 C：『私たちの道徳 中学校』のP.235の感想欄に記入する。  
 T：『私たちの道徳 中学校』P.236～237にある他の生徒の感想文を読む。  
 ※特に担任がまとめずに、余韻を残して終える。  
 なお、生徒が記入した感想文については回収し、後日学級通信などで取り上げる。




指導事例⑥ ～中学校 1 年生「学級活動」～

中学校1年生の指導に当たっては、新たな集団を形成したことにより交友関係が飛躍的に広がる一方、新しい環境になじめずに思い悩む生徒もいます。入学から早い時期に、適切な自己表現やその必要性について理解することで好ましい人間関係を築き、協力していじめのないよりよい学校生活を築こうとする態度や能力を育みます。


●ねらい●

身近な日常生活の中で起こりやすい題材を扱い、級友との対話場面で多様な自己表現を出し合うことを通して自他に望ましい適切な自己表現(アサーティブ)をするためには自分の感情や考えを見つめ、相手の立場に立って話す内容を決めることなどが大切であることを理解する。

●展開例● 自分や相手にとって適切な自己表現(しずか型)に必要なことは?



- 相手の立場に立って、話す内容を考える。
- 自分の考えを明確にもつようにする。
- 相手に分かりやすく具体的に自分の主張を伝える。
- 相手にとって快い話し方や表情に心掛ける。



	A 君	Bさん
I ジャイアン型表現	・お前のこと、絶対許さないぞ。本当のことを早く言わないと承知しないぞ…	・誰がそんなこと言ったの？冗談じゃない、疑いをかけられる身になってよ…
II しずかちゃん型表現	・メールで悪口を流していると言いたけど、本当かい。僕が君の迷惑になることをしたのなら教えて…	・噂は本当ではないし、私はあなたに対してそんな気持ちも毛頭ないよ。誰が言ったか、教えてくれれば…
III のび太型表現	・僕の悪口を書いたとみんなが言っていたようだけど…	・私は………何もしていないけど………

3つに分類された自己表現のそれぞれの特徴は何だろう

自分も相手も尊重する、対話として最も適切な、自己表現

- I 攻撃的な自己表現、相手の言い分や気持ちを無視しながら自分の考えを通す、相手を尊重しない、相手にとっては後味が悪い自己表現……
- II 自分の気持ちや考えを素直に表現する、自分も相手も大切に自己表現……
- III 自分の考えを伝えない、相手を大切にせず、自分を後回しにする自己表現、……

T : A君とBさんの間でメールによるトラブルがありました。

A君は、BさんがA君の悪口を書いたメールを同級生に送っていると噂で聞いた。実は、それはA君の思い込みである。Bさんは、A君についての話題をメールで同級生に送信しているが、悪口は書いていない。

さて、あなたがA君やBさんだったら、何と言うか、みんなが考えたセリフを黒板の表に書きます。

- C : A君は「お前が謝るまで絶対許さないぞ!」と言い、Bさんは「私がメールした証拠出しなよ」とけんかになる。
- C : 自分がA君だったら、Bさんを前にして何も言えなくなってしまうな。
- T : 先生が3つの分類した自己表現の型には、それぞれのどんな特徴があるのだろうか？
- C : I型：攻撃的な自己表現、自分の考えをゴリ押しする、相手にとって脅威となる…
- II型：自分の気持ちや考えを素直に表現する、自分も相手も大切に自己表現…
- III型：自分の考えを相手に伝えることができない、気弱なタイプの自己表現…
- C : II型の自己表現は、自分の主張をしつつ相手を尊重した表現だと思う。
- T : Iを「ジャイアン型」、IIを「しずかちゃん型」、IIIを「のび太型」自己表現とも言います。みんな、I～IIIの型の自己表現にネーミングをしてみようか。
- C : I型は荒い型、………III型は気弱型……自己表現。
- T : しずかちゃん型の自己表現は、どのようにしたらできるのだろうか？
- C : 相手の気持ちを察することが必要だし、話すときの言い方や表情も大切になるのではないかな。
- T : 家族や、友人に対して適切な自己表現になっているかどうか、日常生活を振り返ってみましょう。

指導事例⑦ 中学校1年生「道徳」

中学校1年生は新しい人間関係づくりから始まるが、精神的に未熟な部分が多いことから、周囲の者への配慮や気遣いが上手くできない生徒が見受けられます。また、集団の中では周囲の目を気にして、自分の気持ちとは違う行動をとってしまうこともあります。どんな状況でも相手の立場になって考え、その人の気持ちを思いやって行動することができるようにすることがいじめの未然防止につながります。

●ねらい●

いじめる生徒の言動を周囲の者が肯定するか否定するかで、いじめられる生徒のダメージは大きく左右されることを体験する。また、第三者の態度の重要性を認識させ、いじめを予防する。

●展開例●

T：今日はロールプレイという方法を使って、体験しながらいじめについて学習します。

T：（資料を配付し読む。その後4人1組のグループをつくり、ワークシートを配付する。）

資料の概略

火曜日授業が水曜日授業に変更になった。私は、数学の教科書を忘れてしまったが、前の時間の国語でも教科書を忘れた人がいて隣の席の人に見せてもらうように言われていた。私はとなりのBさんに「ねえ、数学の教科書見せてくれない？」と頼んだが、Bさんは顔をしかめて「えっAさんまた忘れたの？」と大声で言い、「昨日もおととも忘れたでしょ。もう見せるの嫌だ！」ととても嫌そうに言った。私は心の中がすうっと冷たくなるような気がした。それまでにぎやかだったのに、私の机の周りには急に静かになったあと、何人かがひそひそ話をしていたりがなんだか嫌な感じになった。

授業中は数学の先生の言葉がぜんぜん耳に入らず、給食もおいしくなかった。友達は楽しそうに騒いでいたけれど、私は砂漠の中にたった一人で座っているような気がした。

私もなるべく忘れ物はしたくないと思っているが、どんなに気を付けても忘れ物がなくなる。それに、いつも提出物のことで先生に注意されるので、友達は私が忘れ物をするとう「またなの」と嫌な顔をする。

（※「資料」及び「ワークシート」は、教育委員会ホームページに掲載）

これから4人で劇をします。全員がA～Dの役をするので、同じ劇を4回繰り返します。劇には2つの結末が用意されているので、「結末①」が終わったら始めに戻って「結末②」をやってください。これで1回分です。終わるたびに、自分のやった役割と今の気持ちを記入用紙にメモします。最後に注意ですが、ふざけたり、調子に乗ってセリフにない悪口を言ったりしてはいけません。では、○班にお手本を見せてもらいましょう。

C：実際にやってみる。演技が終わった班から記入する。4回繰り返す。

C：終わったら机を戻して、振り返り用紙に記入する。

T：全体で感想を述べ合いたいと思います。まずどの役が一番嫌でしたか。（A～Dまで聞く）

C：A～Dの役と感じたことを述べる。

T：A役の時2つのパターンを演じていて、どのくらい気持ちが違ったかを発表してください。

C：気持ちの違いを具体的に発表する。

T：最後にいじめについて考えたことを発表してください。

C：それぞれの考えを発表する。

T：人は思いやりに欠ける発言をすることがあります。しかし、周りの人がそれに合わせるか、合わせずに公平な態度をとるかで、いじめられる人のショックは全然違います。Bさんのような態度に合わせていると、みんなが意地悪になっていきます。また、みんなが公平な態度をとれば、反省しいじめを未然に防げるかもしれません。

～いじめについて考えよう～

1.目的

今日は、「ロールプレイ」という短い劇のようなものを行います。演技を通じて体験的にいじめを考えてみましょう。



2.やり方

- ① 資料のお話を読みます
- ② 次のA～Dの役を順番に演技します。全員がすべての役を必ずやります。  
Aさん (演じる順番 A→B→C→D)  
Bさん (演じる順番 B→C→D→A)  
Cさん (演じる順番 C→D→A→B)  
Dさん (演じる順番 D→A→B→C)
- ③ ひとつの役につき、「結末①」と「結末②」の演技を続けて行います。
- ④ 「結末②」まで終わったら、記入用紙に今の気持ちを書いてください。  
ひとつの役が終わるごとに毎回書きます。

3.台本

男女とも下のセリフと同じような言葉ならまったく同じでもかまいません。ただし、ふざけたり、調子によって悪口ばかりを言ったりしてはいけません。

- A 「ねえ、今日数学の教科書を忘れてきたから見せてくれない？」  
B 「だって、昨日もおととも忘れたでしょう、いや！」

結末①

- C 「そうだよね、いつも教科書忘れる人が悪いんだよね。」  
D 「いつも見せてあげるBさんがかわいそう」

結末②

- C 「そんな意地悪しないで見せてあげなよ。」  
D 「そうだよ。Aさん困っているよ。」

〈記入用紙〉

組 番 (氏名)

1 回目の役割 (A・B・C・D)	今の気持ち
2 回目の役割 (A・B・C・D)	今の気持ち
3 回目の役割 (A・B・C・D)	今の気持ち
4 回目の役割 (A・B・C・D)	今の気持ち

〈振り返り用紙〉

- 1 まじめに取り組むことができましたか。  
( とてもまじめ ・ まじめ ・ 少しまじめ ・ ふまじめ )
- 2 どの役割が最もいやでしたか。  
( A ・ B ・ C ・ D )
- 3 あなたがA役するとき、「結末①」と「結末②」では、どれくらい気持ちが変わりましたか。
- 4 いじめについて今日の体験から考えたこと、思ったことを書きましょう。



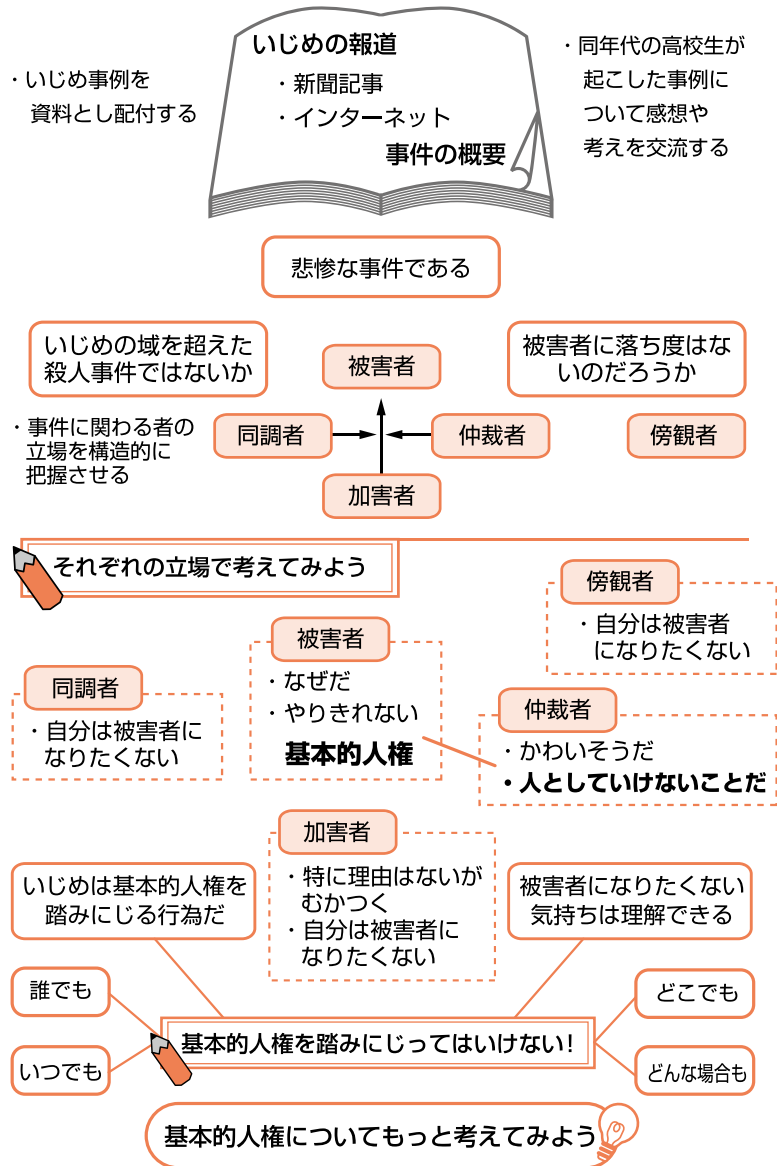
指導事例⑧ ～高等学校「ホームルーム」～

高校生は専門的な技術や知識を身に付け自立への準備を整える時期といえます。子ども時代を終え、大人の仲間入りをする中で、多くの悩みや不安を抱えることもあります。また、義務教育期間で獲得した社会性を駆使し、どのように社会参加をしていくのかを考えなければならない時期でもあります。

●ねらい●

「いじめ問題」について自分なりに原因を追及し、何人も侵してはならない基本的人権を守ることの必要性を考えさせる。

●展開例●



## 指導事例⑨ 高等学校「生徒会活動における未然防止」

高校は、義務教育で行われる普通教育の成果を更に発展拡充させて、豊かな人間性、創造性及び健やかな身体を養い、国家及び社会の形成者として必要な資質を養うことが求められます。また、個性の確立に努め、社会について広く深い理解と健全な判断力を養い、社会において果たさなければならない使命の自覚に基づき、社会の発展に寄与する態度を養う時期であるといわれています。

## ●ねらい●

「いじめ問題」は、全ての生徒に関係する基本的人権問題であることから、安全・安心な学校生活を送るためには、いじめの未然防止に向けた教育や取組を進めることが重要となる。高校においては、生徒自らが自発的に考え行動する態度を、生徒会活動を有効に活用して養いたい。

## ●展開例●

本校には、生徒・保護者・教職員それぞれの代表が集まり、様々なことについて忌憚なく話し合う「スクール・プロジェクト会議」と呼ばれる組織がある。スクール・プロジェクト会議で話題となった「いじめ問題」について、生徒会を中心に活動を展開した。

・スクール・プロジェクト会議：生徒・保護者・教職員の代表者により構成。学校行事や学習に関わる内容の他、制服の見直しやケータイの取扱い、いじめ問題等の話題を取り上げている。

## 生徒会を中心とした「いじめ撲滅運動」の実施

＜生徒会事務局が中心となり、各担当セクションを決めて組織的な活動を行う＞

- 【総務担当】全体の活動計画の作成と調整、他部局やPTA、地域等と連携した取組を推進する。
- 【調査担当】いじめについての世の中の動きやいじめについての資料の収集、意識調査などを行う。
- 【広報担当】いじめについての意識を高めるPR活動等を推進する。
- 【学級活動担当】全体計画に基づいて、学級単位で取り組む内容を計画・実施する。

## 【総務担当】

- ①全校集会による「いじめ撲滅運動」の開始宣言
- ②放送局や演劇部、吹奏楽部等の活動に「いじめ撲滅運動」を取り入れてもらうよう依頼
- ③生徒総会において「いじめ根絶宣言」を採択

## 【調査担当】

- ①ここ3年間のいじめに関する報道や関係法令等を調査し、「生徒会通信」や「校内掲示板」を通して課題提示
- ②いじめに対する生徒の意識を調査するためのアンケートの作成・実施し、分析を行う

## 【広報担当】

- ①調査担当が実施したアンケートの結果やLHRで話し合った内容をもとにして啓発ポスターを作成・掲示
- ②いじめ撲滅標語を募集し、優秀作品をホームページに掲示する等のPR活動を実施

## 【学級活動担当】

- ・「いじめリーフレット」や調査担当が作成した生徒会通信等を利用しながらLHRで学習会・意見交換会を実施
- ・各クラスにおいて「いじめ根絶宣言書」への署名活動を実施し、最終的には生徒会長から学校長へ提出

## ●発 展●

- ・卒業時に3年生が「いじめのない〇〇高校」の継続を希望するメッセージを在校生に発信したり、新入生に向けて「〇〇高校はいじめがない」ことが伝統であることをPRしたりする。

指導事例⑩ 中学校「生徒会活動や様々な活動を通じた未然防止」

いじめの問題については、これまでも未然防止や早期発見・早期解決にむけて、学校や家庭が連携して取組を行ってきました。ここでは、家庭や学校とは違った場面で、子どもたちがより幅広い社会体験・生活体験の機会、異世代間交流など、学校内外の様々な活動をとおして、「いじめ未然防止」に取り組めます。

●ねらい●

授業の枠にとらわれず、生徒会活動、ボランティア活動、地域と連携した活動など様々な取組から、自分の存在、他人の存在を等しく認め、他者とのコミュニケーション能力を養いながら、いじめの未然防止を図る。

生徒会の活動を通して、集団あるいは個々の心を育成し、いじめの問題を起こさない人間関係を構築する土壌をつくる。

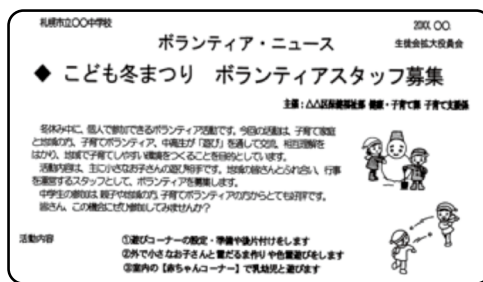
●展開例●

1. 地域との連携及び様々な世代との交流

地域福祉協議会・地域振興課・町内会主催のボランティア活動への参加

☆生徒会が窓口となって募集、集約  
☆お礼、感謝の言葉、手紙などの還元

- ◇地域の河川敷清掃活動
- ◇小学生参加イベントのボランティア活動
- ◇町内清掃
- ◇地域のお年寄りに年賀状を送るボランティア活動



地域のため、自分以外の人のために活動できた事への自信、新たな自己の発見  
自分たちの活動に対して寄せられた、心のこめられた感謝やお礼の言葉への喜び

次の活動への大きな意欲に

2. 地域の問題点を地域の人とともに考える

地域連合町内会と連携

- 町内を町内会の方たちとともに巡回し様々な問題点を見つけ出す
- ゴミステーションの設置場所の問題
  - 歩道の安全性について
  - 子どもたちの遊び場についての問題点 など

地域の人たちと一緒に解決策を考える  
☆異世代間の交流



3. 生徒会行事の中での取組

「学校祭」の閉会式に生徒会主催「みんなで考えるコーナー」で「いじめ問題」を取り上げる。

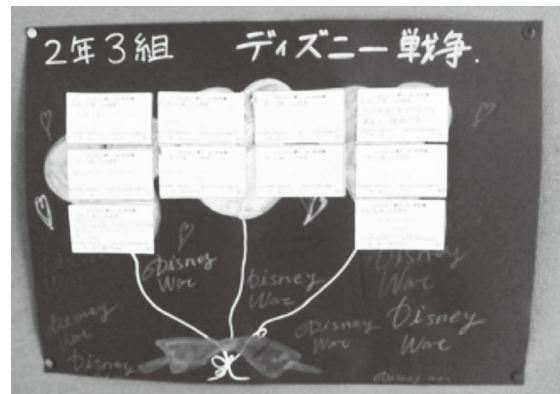
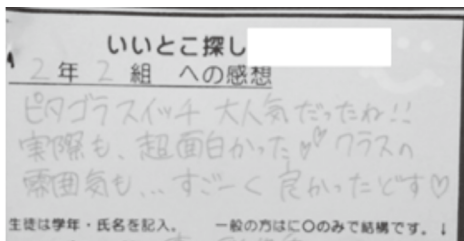
A：生徒会により学校祭前に「いじめ」について、全校生徒を対象にアンケートを実施

B：「アンケートの集約結果の発表」「いじめを取り上げた寸劇の上演」

C：「いじめ」について、生徒、教職員、保護者への直接インタビューの実施

学校祭準備における事前の努力、発表当日の成功等、全校を挙げて充実感に浸る場面において「いじめ防止」「いじめ撲滅」を考える事は、それ以降の学校生活の中で、とても大きな意義をもつものとなる。

「学校祭」におけるすべての発表に対して、良かった点を「いいとこさがし」と題した自由形式のカードに記入させ、掲示する。



日常的に周りの人の良いところを見つける取組。自分の周りの人の「いいところ」「いい言動」「みんなのための行動」を見つけ、廊下の掲示物に書き足していく。

※エンカウンター「いいとこさがし」は教職員により、生徒会活動と併せて年間を通して取り組む。

